

### 3 セッション報告

司会

3セッションの報告に移らせて頂きます。

まず、私、司会を務めさせて頂きます釧路高専の宮澤と申します。よろしくお願いいたします。

3セッションの報告は、各セッション 10 分程度にまとめて発表いただきたいと思います。8分で一鈴、10分で二鈴が入りますので、よろしくお願いいたしますと思います。

それでは、オーガナイズドセッション1「地域協力」についてのオーガナイザーであります、釧路高専地域共同テクノセンター長の岩淵先生より報告をお願いいたします。

岩淵

本校（釧路高専）の地域共同テクノセンター長を務めております岩淵です。

オーガナイズドセッション1のテーマは「地域協力」ということでございます。基調講演ということで、ここ釧路の工業技術センターのセンター長を務めております東藤センター長は、一昨年まで、私ども釧路高専のテクノセンター長を務めておりました、非常に精力的な活動をされて、非常に多くの共同研究実績を作られた方でございます。

東藤センター長からは、この地域の発展、繁栄ということがその根幹にあるわけですが、従来産業が非常に衰退しており、その衰退した産業だけでは地域の発展はないということで、色々な方向転換をする中で、センターがどのような役割をしているかということをお話ししていただきました。その中で、私ども釧路高専という学のサポートが非常に重要であるということで、センターとしてはその学と産業界を結び付けるコーディネートの機能を果たしているというお話をしていただき、最後に、高専の先生方、特に私ども釧路高専にお話をしているのではないかと思いますけれども、先生の研究者としてのあるべき姿というものを提示して頂きました。それはやはり、夢を共有して、努力するという姿、そういう姿を学生に見せれば、学生のやる気も出てくるというお話をしていただきました。

岐阜高専の和田先生からは、色々な産学連携の事例等お話していただきましたけれども、その中で、学外の地域協力の団体との連携がやはり重要であるということ、それから、学校の存在意義を具体的に提示する必要性があるというようなことを話して頂きました。

宇部高専の日高先生からは、色々な産学連携を推進する中で、外との連携も必要ですけれども、やはり学校の中の先生の協力、連携というのが非常に重要であって、特にそれを進める時の大きな障害になっているというようなことで、それを克服するためには先生自体の人間育成の必要性、そしてそれをやる気、気が重要であるということをお話いただきました。

もう一方、福島高専の渡部先生からは、色々なそういった連携を推進するための仕組みづくりの例を色々お

話していただきました。その仕組みの中にはネットワーク、マネージメント。マネージメントが非常に重要であるというようにお話をされていらっしまったと思います。そういった事例を公表していただいた後に、色々な個別のお話をもう少しまとめていただいて、フロアの方の質問、ご意見をいただきました。その中で、やはりネットワークが非常に重要であるということ。このネットワークは外との、外部団体とのネットワークというものが非常に重要であるのはもとより、学の中の、人的なネットワーク、これが色々推進していく中で、私ども高専もそうですけれども、どこの高専でもいくつか悩みがあると思うのですが、仕組みを作ってもうまく機能しないということ。その機能をうまく活用するためにはどういったことが必要なのだろうかということで、フロアの方、パネラーの方で議論をいたしました。

色々なことがありますけれども、それはやはり乗り越えていかなければいけないものであり、それにはある程度、多少時間もかかるかもしれないというようなお話もございました。

色々な問題等を解決する中で、やはり全国の高専、これらがうまく連携していくことが非常に重要であるということ。そこで、今回のサブテーマ、全国の高専はいかに連携するかということでございます。そのためには、どのような方法があるか、ある程度そのシステム、仕組み等はできているのかもしれませんが、それをうまく機能させるためには、やはりもっと良く全体のバランスをとるような大きな組織が必要かもしれない、そして、今後、独立法人になって、全国一高専というものが出来上がっていく中で、そういった機能を持たせた仕組み、組織というものが必要なのではないだろうかというようなご意見も出されました。

いずれにしても産学連携を推進して、地域に貢献して、地域協力ということで地域が豊かになって、みんなが幸せになるというためには、高専、官が連携して、協力して、地域の問題解決にあたるということがやはり重要であるということで、そういった事例も、このフォーラムを通してその成果として生まれることが必要ではないかという意見も出されました。

時間も短くて、私の司会も不慣れなものですから、一つの意見としてまとめた形にはなりませんでしたが、色々なご意見が出されて、それらをまとめて次の成果にということで何か結果が出ればと思っております。

色々まとまりのないまとめでしたけれども、以上、セッション報告にかえさせていただきます。

司会

ありがとうございました。

次に、セッション2「共同研究推進」について、久留米高専校務主事の森先生にお願いいたします。

森

久留米高専の森でございます。

第2セッションのテーマは共同研究の推進ということでございましたが、久留米高専の柳校長に長年の企業人としての経験から、企業の立場としての共同研究に対する考え方をお話ししていただきました。

さらに、事例発表としましては、長岡高専の片桐先生、岐阜高専の福永先生、沼津高専の蓮實先生に事例発

表していただきました。

この事例発表はそれぞれ特徴がございまして、片桐先生のは地域密着型の共同研究、福永先生には科学研究費型の共同研究、蓮實先生には大型プロジェクト研究型共同研究の事例を発表していただきましたが、パネルディスカッションにおきましては、時間の関係上、地域密着の共同研究を推進するにはどうしたらいいかということについて討論をしていただきました。

そこで、中小企業を対象とした共同研究を考える上で、まずスタートが大事であるということです。企画をする時に、まず目的を明確にするということ。成果が100%達成できるものであるということ。それに対する責任を高専も持つということ。逃げ道を作ってはいけないということ、それから最後に商品化まで考えるということ、というお話がありました。

特に3番目の、高専の教官は共同研究に対して責任を持つということに對しましては、フロアからも色々なご意見が出ておりまして、そういう意識は必要であるということのご意見が出ておりました。

さらに、企業経験のない教官が多いですので、商品化についても教官は勉強をすべきである、勉強をしながら学生にも教育をしていく必要があるというご意見でございます。

高専は待っていてはダメで、企業を頻繁に訪問する必要があるということ。先日の基調講演でも、学生と教官、高専と企業との接触を頻繁にすることの必要性を述べられましたように、頻繁に企業を訪問してニーズを探すということです。

それから卒業生との連携、あるいは卒業研究への共同研究の取り組みの有用性についてもご意見が出ておりました。特に大型プロジェクトに発展するような共同研究ですとか、科研費型の共同研究についての討論の時間はありませんでしたけれども、このようなご意見が出て参りました。以上でございます。

司会

ありがとうございました。

続きまして最後にセッション3「産学連携の仕組みづくり」についてのご報告を鈴鹿高専副校長の齋藤先生にお願いします。

齋藤

鈴鹿高専の齋藤でございます。第3セッションでは、「産学連携の仕組みづくり」というテーマで、熱心なご討論をいただきました。

最初に鈴鹿高専の共同研究推進センター長・小倉教授から「産学連携の仕組みづくり」という内容で、現在の産学連携に関する世界的な、あるいは日本国内の状況と問題点、そして高専としての仕組みづくりに関するお話を、また豊田高専の稲垣先生からはデータベースの構築という内容で、全国高専の研究者データベースとネットワークづくりに関するお話をいただきました。

それから、宮城高専の丹野先生からは、高専における実施可能な産学連携の体制づくりという観点から、

そして岐阜高専の所先生からは、技術相談室における産学連携の仕組みという観点から、具体的な高専の抱える問題点も含めてお話がありました。

そのような内容の報告が終わりましてから会場とのディスカッションに移りましたが、色々と意見が出てまいりました。最後には、全国高専の連携に関する仕組みづくりというところへテーマが集約するようにしていきましたが、その中でまとまったと言いますか、意見が出たことをいくつかご紹介いたします。

まず、各学校、各地区ごとに産学連携に関して色々な問題があります。例えば教員のやる気の問題などのお話も出ましたけれども、そういった問題も含めてこういったフォーラムで話し合うことは大事ですし、あるいは事例的な報告も大事だと思いますけれども、例えば同じことを来年もやっていいのかどうか。つまり、そういう問題は現実には当然あるのですが、また各高専ごとに温度差とか意識の差はあるのですが、来年度の法人化を控えて、この時期に一法人としてどういった形で産学連携をやっていくのだということも議論に入れながら話していった方が問題の解決がむしろ早くなるのではないかというご意見がございました。

それから、仕組みづくりという問題を課題にした場合には、産学連携の基盤は結局は人と人とのネットワークであろうという意見もありました。そしてもう一つ大事なことは、全国高専という形、つまり一つの法人という形の中で、一体何がやりたいのか、一体何をなすべきなのかということも議論しない限り、仕組みづくりというのは出てこないだろうという意見がございました。

例えば、研究者データベースの話がかなり話題になったわけですが、何のためのデータベースなのか、どのようにそれを使えるのかということも明確にしないと、データベース構築ということさえも意味がなかなか分からない、出てこないといった意見もございます。

それから、四ツ柳先生にも参加していただいております、最後は四ツ柳先生にまとめていただくような形になりましたけれども、その中に、法人化後には当然のことながら、TLOとかリエゾンオフィスを全国高専としてどうするのだという話がございました。そして、そういった本部のリエゾン機能を各高専のローカルセンター的なところにどのようにして伝えていくのか、あるいはどういう役割分担をするのかというような議論も当然、具体的には出て参ります。特許の扱いについてもそうです。そういうことが今後色々出てはきますが、現実に産学連携について高専は良くがんばっている、素晴らしいアイデアもある、あるいは優れた実践例もあります。ただ、そういったことを我々がやるにはあまりにも多忙であり過ぎるものですから、その時間を我々がいかにつくり出すかというような、むしろ教育研究体制あるいは学校運営体制というようなものを見直さない限り実践的な産学連携活動はなかなか難しいだろうと、そういうようなことを具体的に踏まえた上で今後の仕組みづくりを考えていくべきであろうと、そういったご意見がございました。

従いまして、以上のようなことを解決するためには、早急に、できるだけ早めに、例えばテクノセンター長会議とか、あるいはデータベースを作成するためには情報科の先生とかそれに堪能な先生も必要ですので、そういった方面の実務者会議などを早急に開いていただければ有り難い、そういった要望といたしますか、意見で最後はまとまっております。つまり、状況は非常に早く動いております。産学連携の流れも、ここ2～3年で随分変わっておりますし、あるいは来年の法人化を控えて、高専の状況そのものもかなり流動的に早くな

っております。その中で、スピードも考えてやっていきたい、そういうことです。

最後にまとめますと、我々が、55 高専が集まって何がやりたいのか、産学連携活動あるいは学生教育で何がやりたいのか、何をなすべきかということを明確にすることが仕組みづくりにつながっていくはずである、そういった形（スタンス）を今後とっていきたい、（また上部機関にも）とって頂きたいということでセッション3の意見を集約させていただきます。

以上でございます。ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。

これを持ちまして、3セッションの報告を終了させていただきます。オーガナイザーの先生、ご苦労様ございました。ありがとうございました。